

【概要】

日時：平成25年9月27日（金） 10時00分～11時30分

場所：プリムローズ大阪2階 羽衣

出席者：14名（うち5委員が代理出席）

議題：議題1 「(仮称)百舌鳥・古市古墳群を活用した地域活性化ビジョン(案)」について

議題2 今年度の魅力創出・情報発信事業について

議題3 その他

【議事概要】

➤出席委員の紹介

➤会議の公開について報告

➤資料2、3について資料に沿って事務局から説明。

◆委員

・今年の国内推薦については決してがっかりすることなく、引き続きがんばっていきたいと思う。

◆委員長

・文化庁から課題として示された「顕著な普遍的価値の証明」というハードルはなかなか高い。石見銀山や富士山も価値の証明を工夫したようだ。4月に示された課題はどの程度解決しているのか。

◇事務局

・各専門家の方々からご意見をいただきながら、課題を絞り込み、議論を続けているところ。また、10月23日・24日に国内外の専門家をお招きした会議を開催するので、さらにご意見を伺う予定。

➤議題1について資料に沿って事務局から説明。

◆委員

・ビジョンについては、保全と活用のバランスに気を配っている、よくできたビジョンだと思う。
・「古墳の保全活動費用の確保」は、世界遺産登録までの話ではなく、登録後も永遠につづくテーマになると思うので、行政や地域経済団体だけでなく、インターネットを活用した仕組みを検討してはどうか。例えば、すでに世界遺産になっている二条城の門の修復にはクラウドファンディングが活用されているが、1口千円単位にして目標(の金額)を達成している。地元以外にも活動(の輪)が広がる手法であり、大きな活動はできないが、寄付くらいならできるだろうということもあると思う。また、(自らの意思で寄付するという)「参加型」という形態が良いと思う。

◆委員

- ・堺市は南北の鉄道が充実しているが、東西の交通がいつも課題となる。堺（百舌鳥）と古市についても東西は幹線道路しかなく、遠方から来られた方の移動が困難。今後アクセスをどう確保していくかが課題。
- ・また、せっかく3市が一緒に取り組んでいるので、3市を巡る方法を、大阪府も含めた4者で作れないものか。ただし、3市の古墳だけを巡ってもらうのではなく、ある市では古墳、次の市では中世（の資産）、その次の市では近世（の資産）と、視点の違うものを組み合わせるのが良いと思う。

◆委員長

- ・今後、行政や観光協会だけでなく、民間事業者、さらにはNPO、市民、大学へと（活動の）輪を広げ、さらには全国に広げていくということが重要。また、マスコミにもアピールしていかなければならないと思う。

◆委員

- ・新聞報道等により、大阪府民の間では、「百舌鳥・古市古墳群は候補から落ちた」というイメージが大きいのではないかと思う。「もう一度挑戦する」ということを府民にわかるような形でもっと訴えかけていかなければならないと思う。

◆委員長

- ・我々（民間会議委員）全員が意識して、メディアに発信していかななくてはならない。

◆委員

- ・「広域連携の強化」について、この地域に関しては、古墳、街道、寺内町とそれぞれがばらばらに発信している印象。この活動を通じて連携していくことができればと思う。
- ・また、「関西の世界遺産との連携」として）高野山や吉野を挙げているが、やはり奈良や兵庫、京都にも応援してもらい、近畿全体が連携してみんなでやるということが大事かと思う。
- ・「景観形成」の方向性については、今まさに京都市が大きな規制を行おうとしているので、参考にしてみてもどうか。
- ・「案内の充実」についても提案したい。この地域の一番の弱点は、観光で生活している人がほとんどいないことだと思う。たとえば、「紀伊山地の霊場と参詣道」の地元では、世界遺産になってからの取組みにはなるが、ガイドがボランティアではなくプロとして活動している。また、外国人観光客はネットで宿を予約する仕組みができており、これもかなりの売上げにつながっているようだ。そこでなにか、ベンチャーを興して、もうけていくようなことも入れ込んでいただければと思う。
- ・「何度も訪れたいくなる仕掛けづくり」については、例えば、御陵を掃除する日を決めて、全国から人を集めてみんなに掃除をしてもらうような仕組みはどうか。第1週は〇〇古墳、その次の週は□□古墳と、そういった仕掛けで人を呼ぶのも1つのアイデアかと思う。

◇事務局

- ・堺市では、年2回、仁徳天皇陵古墳の周りを市民の方と一緒に掃除をしている。

◆委員

- ・掃除に関しては、大阪府が、毎年3月に「大和川・石川クリーン作戦」として、石川に隣接する市町村とボランティアが掃除をしているので、市町村持ち回りで古墳を掃除するというのもよいと思う。

◆委員

- ・現在、この世界遺産登録の取組みは大学生にはあまり知られていないと思う。
- ・登録運動に学生が参加する仕組みとして、大学の既存プログラムを活用できないかと思う。例えば、「世界遺産にしよう」というミッションのもと、学生達がプロジェクトチームをつくり、継続的な活動を行っていくということが考えられる。また、地域や企業からいただいたミッションのもと、学生がフィールドワークや調査をしながら企画提案を行っていくという事業もある。推進本部会議からミッションをいただければ、色々な大学が継続的に参加しながら協力できる可能性がある。

◆委員長

- ・戦前は電鉄会社や新聞社が色々な名勝地を含めて御陵を巡るというルートを設定して、キャンペーンを実施していた。
- ・今でも、御陵を巡る場合は、やはりお墓ですので敬意を払っていただく行動をしていただかないといけない。世界遺産登録に向けて、ビジョンの中でもきちんと整理しなくてはいけないと感じている。

➤議題2について資料に沿って事務局から説明。

◆委員

- ・報告になるが、7月に地元3市の経済・観光団体が集まり、事務局も交えて情報交換、意見交換をした。これまでも、それぞれ得意分野の中で色々な事業活動をしてきているが、互いの具体的な活動内容を聞くことができ、参考になった。今後も、①「横の連携」をしていくこと、②情報発信・魅力創出の事業について、引き続き協力してやっていこうということを確認した。
- ・また、商工会議所としては、11月か12月の会報誌で見開きカラーの2ページを使って、世界文化遺産登録の取組みの特集を組む予定。少しでも多くの人に知っていただけるように、地道なことも含めて、できる範囲でやっていきたいと考えており、今後も事務局と連携していきたい。

◆委員

- ・近鉄さんの協力で、12月7日に、阿部野橋駅構内の車両を活用した「マルシェ事業」を事務局と一緒に開催する。堺・羽曳野・藤井寺だけでなく、近隣の市町村の特産品を含めた展示即売会を通じて、世界遺産登録の取組みをPRしていきたいと考えている。

- ・また、商工会では、毎年、(大阪市になる)天神橋商店街で、地元物産品の販路開拓にあわせて、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録に向けたPRを行っており、来年も継続してやっていきたい。

◆委員

- ・「マルシェ事業」については、昨年、大阪阿部野橋駅と上本町駅で、地域の特産品を販売するイベントを開催したところ。参加されたお客様からも「地元でしか買うことのできないものを手に取って買うことができた」と好評いただいている。今回、百舌鳥・古市の世界遺産登録の取組みと連携することになり、PRの1つの場として活用いただければと考えている。

◆委員

- ・私どもは、4月から大阪観光局という形で新しく生まれ変わり、一層プロモーションに力を入れているところ。(プロモーションをするにあたっては、)やはり現地に影響力のある人に対して、実際どういうものであるかというのを発信していくことが大切。
- ・海外に関しては、マスコミや海外の旅行会社の方を呼んで、古墳群や地域の歴史資産を巡るようなモデルコースをまわっていただくこと、国内に関しては、教育旅行のメニューのひとつとして取り入れることができればと思う。

◆委員長

- ・戦前は京都に来る修学旅行は伏見の桃山御陵や奈良の橿原神宮をよくまわっていた。この世界遺産登録を機に、小学校でも古墳、天皇御陵をまわるようなことが考えられるかもしれない。

◆委員

- ・堺では、毎年10月の第3日曜とその前日に「堺まつり」をやっており、今年で第40回を迎える。祭りは、「大パレード」と「利休のふるさと堺大茶会」と「なんばん市」の3つで構成されており、世界遺産についてもPRブースを設けている。
- ・特に、パレードの見学者は38万人おり、内容も一昨年から(リニューアルし)、古墳時代から現代までの歴史を伝えるものになっているので、なにか連携できる場所があればと思う。

◆委員長

- ・今後、特にNPOや市民グループ、大学や学校教育と連携していくべき。例えば、(現在推進本部会議が実施している)「写真コンテスト」についても、民間であれば、もう少し柔軟にできることもあるのかなと思う。
- ・(推進本部会議の)ロゴ・シンボルマークについても、民間会議の我々も使っていければと思う。
- ・富士山が(世界遺産に)選ばれたときの場面を思い起こしてみても、役所が淡々と活動するのではなく、できるだけ多くの人に仲間になっていただくということが大事だと思う。
- ・登録活動の認知度も、取組前に比べれば10ポイントくらい上がってきているが、全国的にはほとんど認知されていないと思う。ぜひとも全国区にしていく、全国が応援してくれる形にしていきたいと思う。